



令和4年9月29日

お知らせ

京都市文化市民局
〔担当 元離宮二条城事務所〕
TEL (075) 841-0096

文化庁移転記念事業
「二条城障壁画 展示收藏館」原画公開 令和4年度第3期
よみがえる狩野派の美 ～^{もしや}模写事業50周年記念展～

元離宮二条城では、「二条城障壁画 展示收藏館」において、年4期にわたり二の丸御殿障壁画（重要文化財）の原画を公開しております。この度、第3期原画公開「よみがえる狩野派の美 ～模写事業50周年記念展～」の開催について詳細が決まりましたので、お知らせします。今回は、模写事業50周年を記念して、模写と原画を並べて展示し、全国的に前例のない規模の障壁画保存の取組について御紹介します。また、関連事業として、模写事業50周年記念 特別講座「狩野派の美を写す」を実施します。

是非、この機会に二条城へお越しくください。

※新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、内容が変更になる場合があります。

1 会期

令和4年10月6日（木）～12月4日（日）〔60日間〕

2 入館時間

午前9時～午後4時30分（閉館は午後4時45分） ※二条城の入城受付は、午後4時まで。

3 会場

元離宮二条城内 二条城障壁画 展示收藏館

（京都市中京区二条通堀川西入二条城町541番地）

※二条城にお越しの際は、公共交通機関を御利用ください。

4 入館料

100円（未就学児無料）

※別途入城料が必要。

※市内に在住・在学の小中学生、市内在住の70歳以上の方（敬老乗車証等で住所、年齢を確認できる方）、各種障害者手帳等をお持ちの方については、入館料を徴収しません。

5 公開作品

- （1）〈式台〉杉戸絵《唐獅子図》、同模写、〈黒書院〉牡丹の間障壁画《牡丹図》、同模写、〈白書院〉四の間障壁画《雪中梅竹小禽図》、同模写（展示作品数：障壁画18面、掛軸2幅）
- （2）解説及び見所 裏面のとおりに

6 関連事業

模写事業50周年記念 特別講座「狩野派の美を写す」

- (1) 開催日 11月21日(月)
- (2) 内容 学芸員によるレクチャー(約25分)、模写制作委託先である川面美術研究所の北尾かおり主任と学芸員の特別対談(約45分)、休憩、質疑応答で構成。
- (3) 時間 午前10時～11時45分 ※午前9時50分受付開始
- (4) 場所 大休憩所北側レクチャールーム
- (5) 定員 30名(事前申込制、抽選)
※当選者のみ郵送にて3日前までにお知らせします。
- (6) 参加費 無料 ※別途入城料が必要です。
- (7) 申込方法 京都いつでもコールに電話、FAX、メールのいずれかで、参加者全員の氏名(1回につき3名まで申込可)、ふりがな、代表者の住所・郵便番号、電話番号をもって申し込みのこと。
- (8) 申込期間

| 実施日 | 申込開始日 | 申込締切日 |
|-----------|-----------|----------|
| 11月21日(月) | 10月19日(水) | 11月7日(月) |

- (9) 備考 二条城まつりの一環として開催します。室内にいる時は、マスク着用必須です。会場内は録音・録画・撮影禁止です。

京都いつでもコール(年中無休)



電話: 075-661-3755

電話での受付時間: 午前8時～午後9時

※おかけ間違いに御注意ください

FAX: 075-661-5855

メール: 以下の送信フォームを御利用ください。

<https://www.city.kyoto.lg.jp/sogo/page/0000012821.html>

7 お問い合わせ先

京都市文化市民局元離宮二条城事務所

〒604-8301 京都市中京区二条通堀川西入二条城町541番地
TEL: (075) 841-0096 FAX: (075) 802-6181

よみがえる狩野派の美 ～ 模写事業 50 周年記念展 ～

二の丸御殿障壁画は、狩野派の絵師たちが寛永3年（1626）に完成させたものです。京都市では、これらの障壁画を恒久的に保存するため、模写を制作して原画とはめ替え、原画を収蔵庫で保管する取り組みを行ってまいりました。本展は、模写事業 50 周年を記念して開催するものです。

この事業が始まった背景には昭和 30～40 年代における旅行ブームがあります。二条城の入城者数が増加し、障壁画の保存と観覧の両立が課題となりました。そこで昭和 44 年（1969）、杉戸絵の模写を作成し、原画とはめ替えることが計画されます。この計画は有識者会議を経て大きく変更され、部屋内の襖や壁の障壁画等も含め 1000 面強の模写を制作するという前代未聞の規模となりました。昭和 47 年（1972）から現在に至るまで、この模写事業は連綿と続いています。

今回の展示では、模写と原画を当館ではじめて並べて展示します。そのうちの《唐獅子図》（模写）は、当初計画において制作された杉戸絵制作の下図であり、模写を行う時点での画面の状態を忠実に写す現状模写で描かれました。その精緻な描写には高い技術と熱意が感じられます。他方、計画変更後の模写は、復元模写で行う方針となりました。復元模写とは、原画が制作された当初の画面を想定して描くものですが、二条城の模写は完成後、御殿内に嵌めるため、柱等との色彩上のバランスを鑑みて古色を付けています。《牡丹図》（模写）と《雪中梅竹小禽図》（模写）は、この古色復元模写の技法で描かれたものです。

これらの模写は、400 年という時間を超えて、制作当初の絵師たちの技術や美意識を現代に蘇らせ、さらに遠い未来へ伝える役割を担っています。原画がどのように写され、いかに復元されたのか、ぜひ間近で見比べてください。本展を通して、模写の歴史的、芸術的意義に思いをはせてもらえれば幸いです。



〈式台〉杉戸絵《唐獅子図》原画（部分）



〈式台〉杉戸絵《唐獅子図》現状模写（部分）